



建築人

3

2015



大阪ホンマモン

二〇一五年一月三十一日、皇居お濠端の

日比谷通りに面する東京會館が、わずかに四十四年足らずの社交場としての営業を終え、閉館した。これは、二〇〇〇年代に入っ

のため室内から見える窓の景観に堀端の古い石垣と水面を借景にしたが、工事中私はそれを眺め四〇〇年の歴史に耐ええた構成に力強い印象を受けると同時に、今もこの地帯に時がきびしく流れているのを感じた。

建築』一九七二年三月号)

ここに記されているように、谷口が旧會館に愛着を抱いたのも無理はない。設計を手がけた田邊淳吉は義父・松井清足の東京帝国大学建築学科時代の同級生であり、旧會館が遭遇した苛酷な運命と共にその顔が思い浮かんだに違いないからである。また、自叙伝の『建築に生きる』(日本経済新聞社、一九七四年)によれば、谷口は、南隣の街

記憶の建築

松隈 洋
東京會館 1971年
谷口吉郎が守ろうとしたもの



皇居側から見る建物全景。右隣の帝国劇場と連続したデザインが施されている。



猪熊弦一郎作のモザイク壁画とシャンデリアが華やかさを演出する1階ロビー

九〇年以上に及ぶ歴史が紹介されていた。発表された計画案によれば、今回の建替えによって、日比谷通り沿いに一部低層部を残しつつも、全体は地上二九階建てに生まれ変わるといふ。それは、お濠端に初めて街区まるごと新築の形で、一五〇mの超高層ビルが出現することを意味する。

「この會館は江戸城と向いあっている。そ

れて営業中止、敗戦後は占領軍のGHQクラブとなる。解除されて再び華かな社交場にもどったが、昭和四十五年には老朽化のためとりこわされ姿を消してしまった。四十五年の短い命は、なまなましい歴史の激流を示し、建築の受けた痛手もひどかった。今もその街かどに「時」が流れ、静かにあるいは瀬を早めてはいるが、都会の哀愁に囲まれている會館の建築にうるわしい余韻をそそぐと、そんな思いに私は包まれていた。」(谷口吉郎「街かどの独白」『新

民輔、一九一一年)も、少年時代に父に連れられて金沢から上京した際に、その立派な外観と豪華な客席に接して感動した思い出の建物だった。そして、それが第四高等学校在学中に起きた関東大震災で猛火に包まれたことを知って強い衝撃を受け、建築家を志そうと決意したのだという。

たその帝国劇場の改築の設計を手がけることになったのだ。やはり今回の東京會館の建替え事業と同じく、隣接する建物と共に街区全体が国際ビルとなって、一九六六年に竣工する。その際、お濠に面する巨大なエレベーションは、黒と琥珀色を基調とした御影石とタイルによる外壁と、ステンレス製の細い縦状のリブから構成された格調高い洗練されたモダンな姿で立ち現れた。因みに、その立面の割付けのプロポーションはどこから来たのかと言え、担当者の太田茂比佐によると、秩父セメント工場(一九五六年)を下敷きにしたのだという。そして、竣工写真の隣に写る建物こそ、この帝国劇場に続いて、谷口が改築を手がけることになった旧・東京會館だったのである。こうして、図らずも、谷口は、少年時代から接していた明治、大正期のお濠端の隣接する二つの建物の最後を看取り、次の時代へとつなぐ仕事に取り組んだことになる。そして、そこには、彼が晩年に向って創設に尽力し、一九六五年に開館した博物館明治村へ連なる思いも込められていたのだと思う。すなわち、自らの建築思想と美学を育んだ明治期の建物が、震災や戦災によって破壊された上に、戦後は、急激な都市化によって人為的に惜しげもなく次々と取り壊されることへの悲しみである。だからこそ、先の文章の中で、四〇〇年という長い時間に耐えたお濠の石垣に對比して、近代建築のはかなさを嘆きしめようとしたのだ。谷口の守ろうとした建築への愛情は受け継がれるだろうか。旧會館より短命に終わった東京會館がそのことを問いかけている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士(工学)。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

INFORMATION

京都国立近代美術館

「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」3/31～5/31

<p>質・規模ともに世界トップクラスといわれるヤゲオ財団(台湾)の会長、ピエール・チェン氏が25年をかけて収集した現代美術コレクションの中から、著名作家の代表作約70点を展示します。</p> <p>会期 3月31日(火)～5月31日(日) 時間 9:30～17:00(金曜20時まで。入館は閉館30分前まで)</p> <p>休館日 月曜(但し、5/4は開館) 観覧料 一般1,200円(前売1,000円)</p> <p>会場 京都国立近代美術館 京都市左京区岡崎山勝寺町</p> <p>問合せ 京都国立近代美術館 Tel.075-761-4111</p>	
---	--



マーク・クイン(ミニチュアのヴィーナス) 2008年 ヤゲオ財団 ©Marc Quinn

<p>大阪市立美術館 特別展「肉筆浮世絵―美一の競艶～浮世絵師が描いた江戸美人100選 4/14～6/21</p>	
--	--

<p>個人コレクションとしては世界有数の規模と質を誇るウェストンコレクションから肉筆浮世絵の名品約130点を近世初期から明治に至るまで歴史的に系統立てて展覧します。</p> <p>休館日 月曜日(但し、5/4は開館、5/7は休館) 時間 9:30～17:00(入館は16:30まで) 会場 大阪市立美術館(天王寺公園内) 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 入館料 一般1,500円(前売1,300円) 問合せ 大阪市総合コールセンター Tel.06-4301-7285 (年中無休・8時～21時) http://www.osaka-art-museum.jp/</p>	
---	--



初代歌川豊国「時世粧百姿図」 絹本二十四巻 ©WESTON COLLECTION

<p>平成27年鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習会(大阪開催) 3/20</p>	
---	--

建築基準法12条第1項に基づき定期調査を行う特殊建築物等調査資格者(登録特殊建築物等調査資格者講習修了者)、一級建築士及び二級建築士を対象に、特に鉄筋コンクリート系マンションの定期調査に秀でた定期調査専門技術者を養成し、マンション管理組合の維持管理をサポートするため、下記のとおり講習会を開催します。

<p>主催 (一財)日本建築防災協会 日時 3月20日(金) 9:50～17:00 会場 大阪府建築健保会館6階 大阪市中央区和泉町2-1-11 定員 120名 受講料 19,440円(テキスト代・技術者証代含) テキスト 鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習テキスト(平成27年版) 申込締切 3月6日(金)必着 (但し、定員になり次第締切) 問合せ・申込 (一財)日本建築防災協会 Tel.03-5512-6453</p>	
--	--

<p>指定確認検査機関等による工事中建築物の仮使用認定手続きマニュアル講習会(大阪開催) 3/27</p>	
--	--

<p>日本建築防災協会では、平成27年6月1日より施行される予定の、現在は特定行政庁等のみが承認することができる工事中の建築物の仮使用について、一定の安全上の要件を満たす場合は、指定確認検査機関等が認定したときは仮使用できることとする改正の内容を解説するマニュアルを作成しています。このマニュアルをテキストとして講習会を開催します。</p> <p>日時 3月27日(金) 13:00～16:10 会場 大阪YMCA会館2階ホール 大阪市西区土佐堀1-5-6 定員 200名 受講料 9,720円(テキスト代含) 申込締切 開催1週間前 (但し、定員になり次第締切の場合有) 問合せ (一財)日本建築防災協会 Tel.03-5512-6451 http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html</p>	
--	--

<p>幻燈で見る阪神大震災の倒壊した建築について 2/28</p>	
--	--

震災20周年を忘れない為に、当時の現場での建築を見ながら、避けられない大震災について考えてみたいと思います。

<p>日時 3月28日(土)11:00～ 会場 堺市立東図書館 (南海高野線北野田駅前) 講師 明治建築研究会 代表 柴田正己 問合せ 明治建築研究会 Tel.090-4289-1492</p>	
---	--

Others

その他のお知らせ

<p>(一社)京都府建築士会青年部会40周年記念事業 建築家セミナー2015 山梨 知彦 講演会 ―近作を通して考えたこと― 3/14 CPD2単位</p>	
--	--

<p>山梨知彦氏講演会、テーマ「近作を通して考えたこと」を開催します。 主催 (一社)京都府建築士会青年部会 日時 3月14日(土) 15:00～17:00 会場 京都ブライトンホテル 京都市上京区新町通中立売(御所西) 講師 山梨知彦(株式会社日建設計執行役員・設計部門代表) 定員 250名(要事前申込、先着順) 参加費 無料 問合せ・申込 (一社)京都府建築士会 Tel.075-211-2857 Fax.075-255-6077 下記HPの申込フォームまたはTel,Faxにてお申込下さい。 http://www.kyotofu-kenchikushikai.jp/</p>	
---	--

<p>第13回村野藤吾建築設計図展 ―村野藤吾の住宅デザイナー 3/16～6/6</p>	
--	--

村野藤吾の住宅作品は、特定のものを除いて、作品集ではほとんど紹介されてきませんでした。しかし京都工芸繊維大学美術工芸資料館が収蔵する村野の図面資料の中には、100を超える住宅作品が含まれています。村野藤吾は、住宅が建築のなかでも特別な重要性を有していると考えていました。今回は、戦前期に焦点を当て、デザインや建設経緯に特徴がある14作品を選定しました。

<p>■展覧会</p> <p>会期 3月16日(月)～6月6日(土) 休館日 日曜・祝日 ただし、4/29(水)・5/3(日)～5/6(水)は開館。 時間 10:00～17:00(入館は16:30まで) 会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 入場 一般200円</p> <p>■記念シンポジウム</p> <p>日時 4月11日(土) 14:00～17:00 会場 京都工芸繊維大学60周年記念館1階記念ホール</p> <p>テーマ 村野藤吾の住宅デザイン パネリスト 藤森照信(建築史家・東京大学名誉教授) 木原千利(建築家・木原千利設計工房主宰) 司会 石田潤一郎 (京都工芸繊維大学大学院教授) 定員 150名 入場 無料(当日先着順) 主催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 村野藤吾の設計研究会 問合せ 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 Tel.075-724-7924 E-mail siryokan@kit.ac.jp http://www.museum.kit.ac.jp/</p>	
---	--

<p>大阪府知事指定講習 建築士法にもとづく建築技術講習会 建築士のための設備図の見方 基本25/21 CPD3単位</p>	
--	--

本講習会は全 2 回のシリーズで行なうもので、「モデル設備図面」を使って図面構成や各設備図の凡例及び内容を理解し、最終的には図面が読めるようになっていただくことを目標としています。また、簡単な設備設計の手法や最近の設備動向も併せて解説させていただきます。第2回の今回は、「電気設備」と「防災防犯設備」について学ぶ講習会です。

<p>日時 5月21日(木) 13:25～16:40 会場 大阪府建築健保会館6階 内容 設備図の見方③「電気設備」設備図の見方④「防災防犯設備」 定員 150名(定員に達し次第締切) 受講料 主催・後援団体会員4,000円、一般6,000円(テキスト代含)</p>	
---	--

<p>本会の催し参加問合せ・申込先 大阪府建築士会事務局 〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103 メール info@aba-osakafu.or.jp HP http://www.aba-osakafu.or.jp/</p>	
--	--

<p>日時 4月14日(火)、21日(火) 13:00～17:50 会場 大阪府建築健保会館6階 内容 基本設計・実施設計・改修設計、温熱環境設計、構造設計、工事監理 定員 150名(定員に達し次第締切) 受講料 2日間 主催・後援団体会員10,000円、一般13,000円 どちらか1日のみ 主催・後援団体会員6,000円、一般7,000円(テキスト代含)</p>	
---	--

Administration

行政からのお知らせ

<p>「近畿建築行政会議 建築基準法共通取扱い集」にかかる質問と回答の公表について</p>	
--	--

近畿圏内の特定行政庁及び指定機関から構成する近畿建築行政会議では、平成26年5月1日に「近畿建築行政会議 建築基準法共通取扱い集」を発刊し説明会を開催しました。説明会後の共通取扱い集に対する質問への回答を取りまとめ、大阪府建築士会のホームページで公表しています。
具体的な運用については審査機関、特定行政庁まで、共通取扱い集の取り組みについては下記の近畿建築行政会議総則部会事務局までお問い合わせください。
問合せ 近畿建築行政会議総則部会事務局
大阪府住宅まちづくり部建築指導室
審査指導課 確認・検査グループ
Tel.06-6941-0351(内線3026)

<p>む若手の心得</p>	
---------------	--

<p>大阪府知事指定講習 建築士法にもとづく建築技術講習会 木造住宅設計・監理コース その2 4/14、4/21 CPD9単位(2日間)</p>	
---	--

戸建住宅の多くは木造住宅ですが、在来軸組構造による木造住宅の設計・監理を体系的に学ぶ機会は限られています。基本設計から工事監理までのスキルをマスターしておくことは、依頼者の信頼を得る上で欠かすことができません。本講習会は木造住宅の設計・監理に本格的に取り組もうとする方や、さらなる実践的スキルアップを目指す方のために開催いたします。2日間のコースですが、どちらか一日のみのお申込みも可能です。

<p>日時 4月14日(火)、21日(火) 13:00～17:50 会場 大阪府建築健保会館6階 内容 基本設計・実施設計・改修設計、温熱環境設計、構造設計、工事監理 定員 150名(定員に達し次第締切) 受講料 2日間</p>	
--	--

<p>主催・後援団体会員10,000円、一般13,000円 どちらか1日のみ 主催・後援団体会員6,000円、一般7,000円(テキスト代含)</p>	
---	--

<p>新会員歓迎交流会 大阪府建築士会活動発表会 CORE2015 4/18 CPD3単位(予定)</p>	
--	--

建築士会では「建築士」として共に学び、スキルアップ、交流、情報交換、見学会、社会貢献、企画運営などさまざまな活動を行っております。新会員のみなさんも「建築士」の資格を活かし、建築士会の仲間となり一緒に活動しませんか？CORE2015では、(公社)大阪府建築士会の事業委員会・社会貢献委員会の事業内容を抜粋して、今年度の活動発表と展示会を行います。
新しい人と人の出会い、役立つ情報がきっとみつかります。お気軽にご参加ください。
日程 4月18日(土)
会場 日建学院
大阪市北区鶴野町1-9
梅田ゲートタワー3F
時間 発表・展示会 13:30～17:00
(受付13:00～)
新会員歓迎交流会 17:30～19:30
参加費 500円(資料代)
新会員歓迎交流会 4,000円
(当日大阪府建築士会入会申込者は無料)
申込締切 4月10日(金)
※新会員歓迎交流会の開催場所は、当日発表会会場にてお知らせいたします。

<p>シニア分科会 赫紫(かくよう) 古代窯業と明日香を訪ねて 3/31 CPD3単位(予定)</p>	
--	--

今回は桜の頃の明日香を訪れ、赫紫(かくよう)で実験考古学として古代日本の土器・埴輪、奈良三彩・緑彩の研究と復元製作を試みておられる脇田宗孝先生(奈良教育大学名誉教授)のお話を伺います。
権原考古学研究所付属博物館、石舞台古墳も見学します。
日時 3月31日(火) 10:00～17:30
定員 25名(申込先着順)
参加費 会員3,000円 会員外4,000円
(マイクパス代、入館料、昼食含む)
行程(予定):(貸切マイクロバスにて移動)
10:00 谷町四丁目集合・受付
11:15～ 権原考古学研究所付属博物館
12:15～ 昼食
13:30～ 赫紫(かくよう)古代窯業
15:15～16:00 石舞台古墳
～17:30 大阪市内
懇親会参加の場合は、別途会費が必要です。参加証は一週間前に送付予定です。

<p>住宅を設計する仲間達 オープン勉強会 住宅模型と3Dプリンターその現状と未来 4/2 CPD2単位(予定)</p>	
--	--

3Dプリンターは、いまや様々なものつくりで活躍しています。住宅づくりにあたって、プリンターの購入までは行かなくても、出力サービスや、データ作成ソフト・データ変換サービスなどを利用して、スタディ用・プレゼン用・完成模型・原寸限見本として模型を作成することも可能になってきました。住宅デザインソフトの開発会社で広報を担当し建築分野のIT活用にも精通されている講師を迎え、出力模型の現物やプロセスの動画を見ながら、現状の3Dプリンターの種類と特性、素材や精度、各種サービスと作成に必要なデータの概要などを知り、業務での活用の可能性を考えます。

<p>日時 4月2日(木) 18:30～20:30 会場 大阪府建築士会会講室 講師 西脇 功 メガソフト株式会社 広報室 参加費 会員1,000円 会員外1,500円 住宅を設計する仲間達登録者は無料 定員 35名(申込み先着順) 協力 メガソフト株式会社 株式会社アイジェット(予定)</p>	
--	--

<p>すぐに役立つビジネスマナー講座 4/3</p>	
-----------------------------------	--

新社会人のみなさんが一番聞きたいビジネスマナーの「なんぞ?」「どうして?」がわかり、また社会人としてすぐに役立つ名刺交換や電話応対、その他盛り沢山な内容の講座です。マナーがまだ曖昧な人、また出来ていると思っている人もこの機会に是非ご参加下さい。参加費は無料です。また、同会場にて講師を囲んだ懇親会を予定しております。
日時 4月3日(金)
16:00～16:45 マナー講座 前半
17:00～17:45 マナー講座 後半
17:45～18:00 建設業界に飛び込

<p>平成27年二級、木造建築士試験案内</p>	
--------------------------	--

■受付場所における受験申込
配布期間 3月9日(月)～4月13日(月)
(土曜日、日曜日、祝日は除く。4/11(土)、4/12(日)は受験申込書の受付を行う所定の受付会場に限って配布を行います。)
配布時間 9:30～17:00
(4/13(月)は9:30～16:00)
配布場所 大阪府建築士会内
大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
受付期間 4月9日(木)～4月13日(月)
(土、日を含む)
受付時間 10:00～17:00
受付場所 大阪府建築士会内
学科試験日 二級7月5日(日)
木造7月26日(日)
設計製図試験日 二級9月13日(日)
木造10月11日(日)

<p>省エネ申請に不可欠!CADを使用した外皮計算 3/10 CPD2単位</p>	
--	--

昨年12月27日閣議決定した「エコリフォームに対して様々な商品と交換できる省エネ住宅ポイント」(2014年度補正予算)や省エネ木造住宅に対する補助制度の地域グリーン化事業に必要な建物外皮(外壁・屋根・天井・床・窓)の断熱計算の方法を説明します。また省エネに関わる制度変更を今後のロードマップを使って詳しく説明します。

<p>日時 3月10日(火) 講義18:00～19:30 ミニ懇親会 19:30～20:30 会場 おおさかATCグリーンエコプラザ 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCITM棟11階西側</p>	
--	--

<p>参加費 会員1,500円 会員外2,000円 (ドリンク・フード付) 定員 60名(申込み先着順) セミナー概要</p>	
---	--

<p>第一部(18:00～19:00) 「省エネに関わる制度のロードマップ」 講師 ハウスプラス住宅保証㈱ マネージャー 吉本圭佐 第二部(19:05～19:30) 「CADを利用した外皮計算の実例」 講師 福井コンピュータアーキテクト㈱ 上席主任 木瀬恵和</p>	
---	--

<p>大阪地域貢献活動センター 平成27年度助成対象活動募集</p>	
--	--

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづくりなどの地域貢献活動に対して、活動費の助成などを行います。
募集期間 3月13日(金)まで
対象とする活動
建築士と地域住民等で構成する団体が進める地域貢献活動が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、原則として営利を目的としていない活動。
助成額 1件の助成額は30万円を限度
問合せ 本会・社会貢献委員会
※募集案内は1月号に同封しています。

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。
本会ホームページのWEB 申込システムから簡単に申込みができます。【詳細は大阪府建築士会ホームページ】http://www.aba-osakafu.or.jp/ まで

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

<p>■</p>	
----------	--

<p>本会における既存建築物耐震診断等評価業務</p>	
------------------------------------	--

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けますのでどうぞご活用ください。

<p>(業務内容) 耐震診断報告書の審査、評価 耐震補強計画案の審査、評価等 (対象建築物) 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。 (会員特典) 申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。 詳細は、本会ホームページをご覧ください。</p>	
--	--

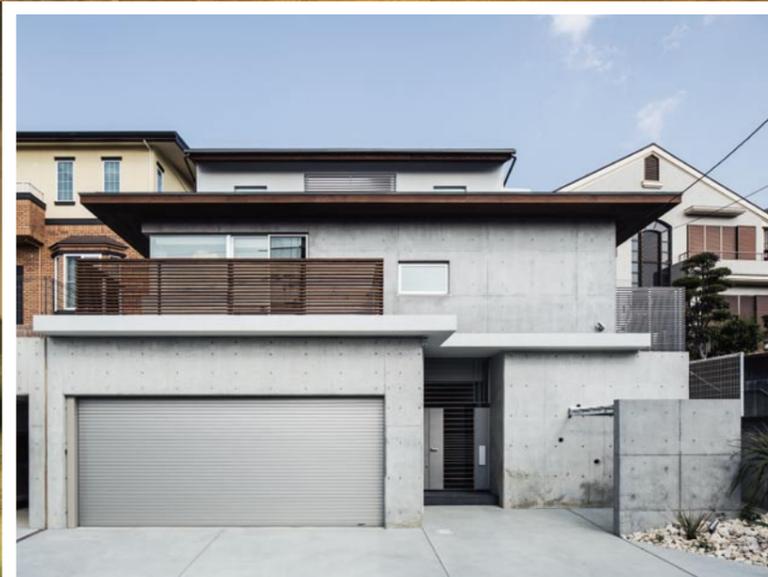
<p>会費の口座自動引落し登録のお願い</p>	
--------------------------------	--

会費の口座自動引き落としに登録いただきますと、金融機関に向いているの振込手続きが不要となり、毎年の手間が省けます。手続きは、口座振替依頼書にご記入いただきご送付いただくだけです。会費のご請求書とともに、口座振替依頼書をご送付申し上げますので、ぜひ、ご登録下さい。

<p>大阪府知事指定講習 建築士法にもとづく建築技術講習会 外装タイルの剥落の課題と対策 3/6 CPD3単位</p>	
---	--

<p>タイトルは建築の外装として魅力ある材料ですが、剥離・剥落が大きな課題となっております。そのため、対策として業界全体で新工法の開発が取り組まれています。今回の講習会を機にあらためてタイルの歴史をたどりながら、新工法を提案させていただき、設計・施工に役立てていただければと考えております。</p> <p>日時 3月6日(金) 13:25～16:50 会場 大阪府建築健保会館6階 内容 タイルの基礎知識、外装タイルの剥離・剥落の原因と対策、外装タイル・タイル下地施工の留意点 定員 150名(定員に達し次第締切) 受講料 主催・後援団体会員3,500円、一般5,500円(テキスト代含)</p>	
--	--

<p>2015.03 建築人</p>	
--------------------	--



敷地は閑静な住宅街にあり、宅地開発のため車庫となるボックスカルバートと擁壁が造成されていた。車庫と擁壁の間をくぐる洞穴のようなアプローチから入り、墨モルタルで仕上げられた屋外の階段を登ると玄関にたどり着く。掘削を減らすべくエントランス-ダイニング-リビングをスキップフロアとし、ダイニング-リビングは中庭と階段によりゆるやかに繋がる。敷地の有効利用を考え、既存のボックスカルバート上に建物がせり出すようなファサードとすることで、敷地の北側に大きな庭を創ることが可能となった。北側に配置したリビングからはその庭と隣地の緑を借景として楽しむことができる。

所在地：大阪府豊中市 東豊中町
用途：個人住宅
竣工：2014.11
構造規模：RC造 地下1階 地上2階
敷地面積：316.08㎡
建築面積：120.05㎡
延床面積：199.80㎡
写真：笹倉洋平



高台にある敷地は道路から一層分上がり、北側は尚6m程度の頂上で急勾配の雑木を有する。南側隣家の屋根の他は生駒の山並みまで一望出来る。道路から直接、地下の車庫を配し、敷地面レベルに南側から居間・食堂・台所を配した。雑木林側に寝室・浴室へと繋ぎ、その空間に二階子供室への階段を設け、各々の眺めを確保した。南側居間から二階子供室・雑木林に向けて片流れの大屋根とし敷地のもつ形状に合わせた。車庫上の和室は、玄関ホールからも台所からも出入り出来、特別な部屋にならない様にし籠破床の設えを現代風にデザイン化した。桜の花を友に、障子から開放した水盤の眺めが楽しみである。

所在地：大阪府吹田市
用途：専用住宅
竣工：2013.01
構造規模：地下RC造 地上木造2階建
敷地面積：671.58㎡
建築面積：183.77㎡
延床面積：276.71㎡
写真：松村芳浩
(木原千利)



二層分の大空間に大和棟の形態を引用した大屋根、急勾配の上屋根と緩勾配の下屋根が重なり合った屋根を特徴とした住宅である。この住宅における試みは、屋根によって、住まいを一つのまとまった場として領域化しつつ、その領域化された場を差異化することであった。内部空間の空間的自由度を確保するために棟を支える柱は設けず、屋根は外壁周りの柱と壁に寄せ掛け、その結果、内部空間全体に構造的な秩序をもたらすことができた。重なり合う二つの屋根が雲のようにひとつに空間を包み込み、場所を規定し、重なり合う二つの屋根と間から透過、反射した光が内部に柔らかな光の場をもたらしている。

所在地：奈良県奈良市
用途：住宅
竣工：2014.11
構造規模：木造2階建
敷地面積：458.37㎡
建築面積：155.16㎡
延床面積：206.62㎡
写真：松村芳治



千里山の頂に面した閑静な住宅街に位置する敷地は、大阪の摩天楼や北摂の山々を一望できる。実業家であるオーナーはピアニストでもあり、人々が集う機会が多い。建物の構成はピアノサロンを中心としたパブリックの要素が非常に高い特殊な計画である。サロンは音響を考慮した斜天井、専用屋根を持つ1.5層空間とした贅沢な組立で、連続する跳出テラスとR形状の庇が果てしない外部空間との融合を醸し出している。更に可動間仕切により、その空間容積を様々なスタイルに合わせて自由に变化できる。居住に関するゾーンはパブリックゾーンと明確に分離され、プライバシー確保と緊張感を持った空間を形成している。(仲西 真)

所在地：大阪府吹田市
用途：ゲストハウス
竣工：2014.07
構造規模：RC造地上2階、地下1階
敷地面積：468.09㎡
建築面積：128.05㎡
延床面積：199.99㎡
写真：多田雅輝

先月の大阪環状線森ノ宮駅に引き続き、都市遺産の再生をご紹介します。船場センタービルの外装の再生です。全長1000メートルという大阪を代表するスケール、高架下という独特のシチュエーション、500人の区分所有者という、さまざまな課題を乗り越え、イメージ一新を図るなか、都市遺産とどう向き合ったのか、設計を担当された石本建築事務所の茅田吉宏さんにご紹介いただきました。

船場センタービル外壁改修について -船場再生への架け橋-

茅田 吉宏

株式会社石本建築事務所 大阪支所 主任
1978年山形県生まれ。2003年日本大学大学院理工学研究科博士前期課程建築学専攻修了。2003年～株式会社石本建築事務所。高知県民文化ホール、大阪信愛保育園のリニューアルプロジェクトを担当。

キタとミナミの分断の象徴

大阪の中心でキタとミナミを分断するように立ちはだかる壁。それが船場センタービルである。かつて船場は商いの中心として繊維問屋が集中し、南北に走る個性を持った「筋」とともに築えていた。しかし現在では東西に長い船場センタービルのある高架道路を境にキタとミナミが分断され、かつての船場の賑わいが失われつつある。梅田地区や阿倍野地区の再開発もあいまって企業や商店の流出による空洞化が進んだ。まさに船場センタービルの長大な壁面がキタとミナミの分断の象徴であった。

土木と建築の融合したダイナミックな構造
船場センタービル（一九七〇年建設）は新たな東西の幹線道路として中央大通が計画されるのに伴って立ち退きが予定された商業者を移転先として吸収した巨大なビルである。

ビルの屋上には阪神高速道路と市道が走り、地下には地下鉄中央線が走っている。高架道路の傾斜に合わせてビルは一階から四階まで変化し、計一〇棟が約一〇〇〇mに渡り中央大通上に立つ道路上の建築である。地下一階〜二階は繊維関係の小売や卸売業の店舗、上階は事務所、地下は飲食店で賑わっている。土木と建築が融合したダイナミックな姿は大阪万博当時の時代の勢いや大阪の先進性を物語っている。

よく卒業制作の敷地に船場センタービルを選ぶ学生もいるという。ポテンシャルのある場所だと感じられるのだろう。

九つの筋の再生

その船場センタービルも竣工四五年前かに単調にならないかが課題であった。アルミパンチングパネルの孔をグラデーションで変化を持たせ、一部は孔のないフラットなパネルとすることでメリハリのある外観とした。それはコスト削減にもつながり、その他にも外壁面積が約三万㎡ある工事の中で限られた予算内におさめるためにデザインのエコということにも取り組んだ。

キタとミナミをつなぐゲート

スケールアウトした筋の高架下の圧迫感というのも課題であった。そこで筋部にはゲート上の庇を出し、高架に視線が行かないような工夫をした。暗く重いイメージの高架下はゲート性をもった明るい顔に生まれ変わり、筋の通りを良くすることで新たな人の流れを生み出すことができた。

以前まではどこが何号館か、また何筋かが分かりづらかったが、一から一〇まで



改修後の堺筋側の外観（3号館）



改修前の堺筋側の外観（3号館）

経ち外壁タイルの劣化が見受けられ早急な外壁改修が必要となり二〇一〇年春に設計事務所数社でプロポーザルコンペが行われた。

私たちのコンセプトは「キタとミナミをつなぐゲートとなる建物への再生」ということであった。

大阪の街並みは個性的な筋と共にある。船場センタービルには大阪のシンボルでもある銀杏並木の御堂筋、ガス燈に近代建築が映える三休橋筋、商店街で賑わう心斎橋筋や井池筋、かつてのメインストリート堺筋など九つの筋が通る。

船場センタービルを境に筋が分断される形となっていたことが課題だと感じていた私たちはその賑わいの源であった九つの筋を再びつなぐことを提案した。そうすることでキタとミナミに新たなつながりを生み出し、船場再生への架け橋となるのではないかと考えた。

船場のイメージの一新

プロポーザルコンペに当選した私たちは各号館の代表者で構成される外壁改修委員会と改修案の検討に入った。一九七〇年にできた建物カリノベーションするにあたっては保存か全面改修かで大きく二つの方向性に分かれるかと思う。求められたのは淀屋橋の近代建築のような外壁の保存ではなく、船場センタービルの「イメージの一新」であった。

外壁タイルの落下を確実に防止することが第一の目的であったが単なる外壁改修ではなく、船場センタービルの活気を取り戻し、さらに船場の街自体の活性化が求められた。外壁改修委員会の方と協議を重ねる中で、生まれ変わろうとする熱い思いと期待感というものを強く感じ

の号館サインを表示し、筋には「心斎橋筋」「三休橋筋」などを各筋の名前を表示することで分かりやすいサイン計画とした。グラデーションに変化する小紋模様や伝統色により、中央大通沿いを歩いて行くときと特色のある顔となった筋が移り変わり、一〇〇〇mの長い外観の中で単調とならざリズムのある外観となることを意図した。

一〇〇〇mの虹の橋

船場は繊維の街であると同時にオフィス街でもある。周辺環境に配慮し昼間は白を基調した端正な姿としたが、夜はライトアップにより昼間と違った表情を見せて、閑散とするオフィス街のイメージを一新する街の灯りとなることを計画した。船場センタービルは「大阪・光のまちづくり二〇二〇構想」の光の都市軸と直行する位置にあるため、南北に亘る御堂筋イルミネーションとリンクする東西一〇〇〇mの虹の橋となることをコンセプトとした。難波の電飾看板のギラギラ感とは違う大人な街並となることを意識したものである。

また御堂筋線、堺筋線に挟まれた船場センタービルは交通の拠点であり人が行き交う場所である。歩きながら見ることを想定して、照明計画は具体的にはシンブルな点光源の照明効果により、アルミパネルの小紋模様の孔を通して光が見え隠れし、人が歩くにつれて光がゆっくりきらめくような効果をねらった。筋の通りも以前はあまり歩きたくない暗い場所であったが、間接照明により壁面を明るくライトアップし光のトンネルとすることで夜でも安心して歩ける街とすることを考えた。

た。しかし一方で船場センタービルは約五〇〇人の区分所有者ビルであり、それぞれの区分所有者の意見の集約は困難を極めた。一時はプロジェクトの存続も危ぶまれ改修案も二転三転したが構想三年目でようやく着工に至った。

繊維のまち・船場の演出

最終的に外観は繊維のまち・船場に因んで「織物」をモチーフにやわらかい外皮で包みこむイメージを提案した。具体的には軽量で躯体に負担をかけないアルミパネルに小紋模様を施し、着物のデザインを建築に取り入れることで船場ならではの街並を演出している。既存の建物を包むこのアルミパンチングパネルは織物のように曲面を描くことで街並に流れるようなイメージとなった。

「波」「鮫」「格子」「麻の葉」など小紋模様をアルミパンチングのパターンに活かし、筋部には「もえぎ色」「朱色」といった日本の伝統色を採用し固有な「色」を持たせた。

大阪市都市景観委員会の先生がたにも意見を伺い、特に格調高い御堂筋側の外観は落ち着いた霧囲気が求められた。そこで御堂筋から堺筋に向かつて青色から赤色に、小紋模様は幾何学模様から流動的なパターンに変化する外観となった。

一〇〇〇mの巨大な壁面がい



船場センタービル（1～10号館）配置図

都市遺産の再生へ

実は私たちの事務所（大阪支所）は船場センタービルの六号館の目の前のビルに事務所を構えている。毎日既存の茶色のタイルの外観と新しくなった外観の両方を見比べながら、「本当にこれで良かったのだろうか」と思う日々であったが、「生まれ変わったね」と話す声やライトアップの船場センタービルの写真を撮る人々を見てやっとその不安は消えつつある。

大阪の交通の大動脈を支えてきた船場センタービルは、紛れもなく重要な都市遺産だといえる。都市部の空洞化とともにこのまま閑散とした場所となってしまう。船場センタービルが生まれ変わることで、船場地区にもう一度人々が集い賑わいに満ちた場所となるのが都市遺産の再生へつながるのではないかと考えた。取り戻したいのは人の流れや活気であり、それこそを街並の風景として残し続けたい。今回のリニューアルがそのきっかけとなればと心から願っている。



外壁詳細：上部アルミパンチングパネル、下部 GRC（堺筋の波模様）

魅力あるまちを目指して（行政の歩むべき方向と、民間事業者への期待）

文 吉田 紀彦
今中 義晃

1. はじめに

まちの問題は常に変化し続け、より複雑になり、かつ幅広い視点での配慮が必要であると考えております。環境問題、災害に対する防災性の問題、人口減少や少子高齢化の問題など様々なまちの問題に対して、対症的に行うのではなく、将来を見据えてまちづくりを行うべきですが、その時々々の社会経済状況や個人の価値観の多様化、ライフスタイルの変化、情報化、国際化、グローバル化の進展等の様々な要因により予測不可能な要素が複雑に絡み合い、混沌としていくように感じます。

これからの行政はより公平かつ柔軟に、適切なタイミングで適正な業務と人口減少等による税収の減少を見込みながらも、安定的な市民サービスを提供するための持続可能な行政の運営が求められています。

2. 豊中市のご紹介

本市は、大阪市の北側に隣接し、大阪府内の北摂地域に位置しています。市の面積は約三六、六km²で、幹線道路として、東西方向に中国縦貫自動車道、名神高速道路、南北方向に国道一七六号、新御堂筋などが市を貫いており、また西部には空の玄関口である大阪国際空港が立地し、大阪モノレールや阪急電鉄宝塚線、北大阪急行電鉄などの公共交通網も整備された交

通利便性が非常に高い地域であり、大阪都市圏の中でも、早くから郊外住宅地として発展してきたまちで、伝統や歴史と調和しながら、時代の移り変わりとともに、快適な住宅都市、教育文化都市として着実に歩みを重ね、平成二四年（二〇二二年）四月には中核市となり、人口は減少方向から近年微増傾向にある約四〇万人の都市であります。

本市の北東部には、日本で最初の大規模ニュータウンとなる千里ニュータウンが位置しており、まちびらきから五〇数年が経過し、近年、建替えなどの再整備が進みつつあります。一方住宅地においては、住民発意の地区計画が都市計画決定され、その地区計画が周辺の地域へさらに広がっていくことも見られます。

また、本市の南部には、大阪市の中心部に近いうえで庶民的なまちで、昭和三〇年代の高度経済成長期に人口が急増し木造住宅密集地となったものの、近年は人口減少、高齢化が進んでいる庄内・豊南町地区があります。

ここでは、庄内・豊南町地区の取り組みについてご紹介させていただきます。

3. 庄内・豊南町地区での取り組み

庄内・豊南町地区（地区面積約五〇五ha）においては、高度経済成長期に道路等補助予定の最終年度となる平成二七年には、まちの更新状況の確認及び効果の検証を行い、まちの防災性を向上させるための施策について検討して参ります。

建物の種別	補助率	補助限度額
木造共同住宅 (アパート・文化等)	(2/3) 5/6	(280万円/1棟) 350万円/1棟
木造共同住宅を 含む併用住宅		(210万円/1棟) 260万円/1棟
木造住宅 (戸建・長屋等)	(1/3) 5/12	(45万円/1戸) 55万円/1戸
木造住宅を 含む併用住宅		(45万円/1棟) 55万円/1棟
その他木造建築物等 (店舗・事務所等)		(65万円/1棟) 85万円/1棟

※上段：(H25年度)
下段：H26年度

4. 民間事業者への期待

一般的に密集市街地と言われるところは、高齢化が進み、道路等の接道条件が悪く権利関係が複雑であり、建替え等の民間事業者の投資が限定的となる懸念され、市では、道路や公園といった都市基盤の整備を継続的に進めているものの、公共だけで実施できる施策は限定的となることから、民間事業者のエネルギーや創意工夫がまちの活性化に欠かせないものと考えております。

また、庄内・豊南町地区は、大阪都心部に近く、住みやすく便利なまちという地区の大きな魅力を生かすべく、そのポテンシャルを十分に発揮できるよう模索していきます。

さらに、市としましては、民間事業者の方に当該地区への関心を持っていただき、「木造住宅等除却費補助制度」をきつ

の都市基盤が未整備なまま木造賃貸住宅等が集中して建設されたことから、災害が起きた場合には、消防活動に支障がある区域が多く、甚大な被害が発生する恐れのある、いわゆる密集市街地が形成されています。

市ではこれまで、都市計画道路の整備や、土地区画整理事業、市街地再開発事業、住宅市街地総合整備事業等さまざまな事業を駆使し、庄内地区においては昭和四七年度より、豊南町地区では平成四年度より住民参加による、住環境の改善及び防災性の向上に注力してきました。

これらの事業は、関係する地権者の理解と協力のもと市の財政状況等を勘案しながら、事業化が可能となるから順次行っていますが、事業の実施には長期間を要するものであり、既に実施した事業量は地区全体で見ると限定的なものであります。

しかしながら、近い将来に大震災の発生の危険性が危惧されている状況では、個々の建物の不燃化や耐震化を図っていくことが非常に重要であり、地区全体での「減災」に向けた取り組みをより一層推進することが必要であります。

このため、平成二五年度より「防災街区整備地区計画」及び「木造住宅等除却費補助制度」をスタートさせました。

けに、建築物の建替えの実施にご協力頂き、まちの活性化につなげて参りたいと考えております。

5. 魅力あるまちをめざして

「耐震性の向上」「狭隘道路の解消」「燃えにくいまちづくり」に向けての、「防災街区整備地区計画」及び「木造住宅等除却費補助制度」は地区の防災性の向上や住みやすいまちづくりを主眼に考えたものであり、結果としてまちの魅力向上に大きく貢献していると考えております。

木造住宅等除却費補助制度で対象としている建物は、旧の耐震基準によるものであることから、建替えが進めばまち全体の耐震性も向上し、そこでお住まいの方々により安心安全に暮らすことができます。

また、新しい建物が建築される際には建築基準法上必要な道路等も整備され、さらには若い世代も入居しやすい住宅等が建設されることにより、人口減少や高齢化への対策が期待できるなど、民間の活力を導入しながら、まちの再生、魅力向上、活性化が図れるものであります。

防災上危険なアパート、文化住宅等が洗練された最新の共同住宅等になることで、景観が変わりまちが明るくなったと聞くことがあり、このような建て替えを支援する取組や主要生活道路の整備など様々な施策を着実に積み重ねて、地域の防災性の向上と住環境の改善に繋がっていきたくと考えております。

最後に、まちづくりに携わっておられる建築士の方々には、市民への情報提供や相談等をおこなっていただくとともに、住環境整備について培われた技術力を発揮し、住

① 防災街区整備地区計画

「庄内・豊南町地区防災街区整備地区計画」
市ではこれまで、主に道路、公園等をはじめとする都市基盤の整備を進めることで、住環境の改善及び防災性の向上を図ってまいりましたが、全市的に道路等のインフラが老朽化し維持管理に要する費用が増し、新規に整備される都市基盤の予算は限定的となり、財政的な制約も高まり、また、人口が減少し、少子高齢化が一段と進み、生産年齢人口が減少する中、新たな道路等の都市基盤への投資はより困難な状況となりました。

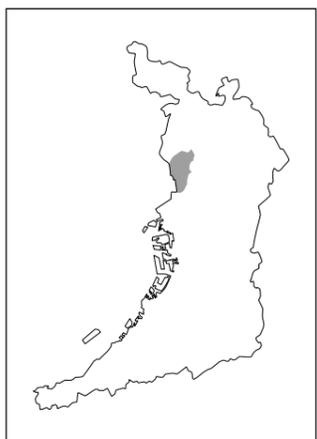
そのような中、当該地区が市内で最も人口減少や高齢化が著しく、まちの活性化への取り組みが課題となっており、まちの活性化には安全安心のまちづくりをより一層推進する必要があるため、まち全体の不燃化を促進しようとするものであります。

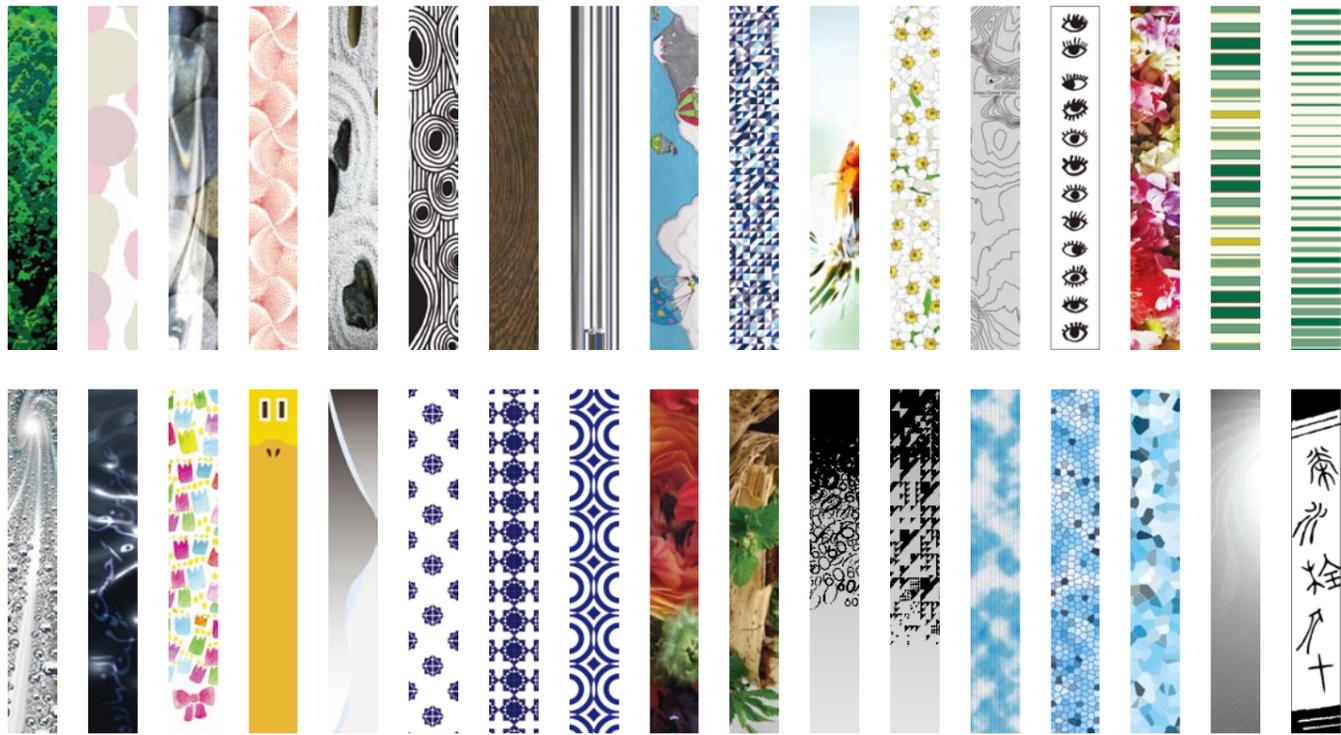
この地区はまちの活性化に欠かせない多くの企業が立地するなど、工業地や住工混在地が形成されているという特徴をふまえて、工場の操業環境などの経済活動に大きく影響を与えないように配慮しながら、効果的に不燃化を図るという課題に対応する手法として、「防災街区整備地区計画」にたどり着いたものであります。

この「防災街区整備地区計画」は、府民の方々が「住んでみたい」「今後も住み続けたい」と感じるようなまちに向けて、行政と連携し安心・安全で暮らしやすいまちを目指す役割を担って、これからのまちづくりを共に推し進めていただきたいと考えております。



吉田 紀彦	
豊中市都市計画推進部 市街地整備課長	
一九五六年 広島県生まれ	
大阪府立西野田工業高等学校建築科卒	
一九七五年 豊中市へ入庁	
二〇一四年 建築、教育、住宅行政等に携わる	
二〇一四年 四月より現職	
今中 義晃	
豊中市都市計画推進部 都市計画室 室長補佐	
一九七三年 大阪府生まれ	
近畿大学理工学部建築学科卒	
一九九五年 豊中市へ入庁	
まちづくり、建築指導、都市計画等に携わる	
二〇一三年 四月より現職	





60th with 60 Design

www.san-ei-web.co.jp/library/60design

デザイナー、アーティストなど、多彩なクリエイターがデザインした水栓レバーハンドルが60種類。個性溢れるデザインの中からお気に入りを見つけて、あなただけの空間をコーディネートしてください。



理事会報告

文責 本会事務局

日時 二月十八日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室
出席 理事三二名、監事二名

(1) 決算見込み・予算案について
一月末日の当期経常増減額は、収入四、三四四、〇八円、支出二、九八五、五五六円、差引二八、三三八、四六二円を報告して承認された。二十六年度収支決算の見込みは、約五七〇万円、黒字収支差引で推移していることを報告して承認された。主な要因は、先月に引き続き建築物耐震評価業務の件数増加が顕著である。次年度予算案については、上記の好調要因の継続は難しく、研修・教育事業系の再構築、建築人の特集のあり方の見直しなどを行う。なお、大阪府立病院機構への技術者派遣は、今後の業務内容が不明確であることで委託契約は難しく、予算計画への影響が大きい。提示の予算案を各委員会で精査して、三年度運営委員会と協議する。

(2) 役員候補者の選定について
平成二十七・二十八年度理事・監事候補者選考委員会により、理事二五名・監事一名が推薦されて承認した。新任役員は、五月定時総会に付議して決議いただいたあと、次期役員は、留任役員とともに理事四三名・監事二名で構成される予定である。

(3) 長野県建築士会との協定書について
平成二十八年度NHK大河ドラマ「真田丸」放映を契機にして、長野・大阪の両建築士会が活動や諸課題に関して交流を行うべく協定を締結するもので、長野県建築士会の提示による協定書案を承認した。三年度理事会席上に長野県の関会長他をお迎えして調印する予定である。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(二十六)
狭い敷地の境界トラブル
編・構成 橋本頼幸

今月は、相談員の太田昌宏様に話題提供をしていただきました。境界トラブルは絶えません。特に大阪などの大都市の狭小敷地ではなおのことです。そんな事例を紹介いただきました。

事例①

注文住宅で平成十年に新築された住宅。新築時は隣地境界から、壁芯まで二〇〇mmで鉄骨三階建てを建てる。建築中、隣地建物の屋根に登った作業があり、隣人と不仲になる。外壁漏水補修の為、隣地内に足場組立のお願いをする。聞き入り聞かされてもらえない。せめて、敷地内に踏み込まず、架空にてのゴンドラ作業を提案するも隣人の許可が出ない。周辺隣人との関係が悪化した場合、自己敷地内で完結できないような建物は、維持管理が大変である。

事例②

平成七年に新築された建売住宅。建築中の建設会社の不手際により、敷地境界ぎりぎり(外壁から約八十mm)に建ち、相手方は約二五〇mmあり購入当初から隣人に入ると言われたこと。最終的に建物で隣人に許可が得られず窓の入替を内部から施工した。

事例③

三軒長屋の建物の奥庭に増築し、隣地の外壁を利用して室内を作った。その後、隣地が解体されたため、その部屋の壁がなくなった。補修が出来ず、解体せざるを得なくなった。

建てる時はなんとかなっても：
新築時はなるべく広く建てたいと思いが、狭い敷地にぎりぎりまで建てようと思いが、補修の際非常に困ったこととなります。路地があれば

補修は可能ですが、隙間なく建ててしまうと、隣接建物所有者などの協力が得られないと、補修できなくなる事があります。
最近では極端な例は減ってきている

近年、瑕疵担保保険の規定でほとんどが外壁に通気層をとる工法が採用されるようになり、新築工事の作業スペースをとるためにも、人も入れないスペースに建ててこむという極端な事案は減っていると思われまます。また、「建物を築造するには境界より五十センチメートル以上の距離を存することを要す(民法三三四条)」も広く認知され、都心の狭小敷地でも設計や施工を工夫するようになってきています。

ただし、この規定も隣人の承諾がある場合や近隣でそのような規定がある場合(前二条の規定に異なりたる慣習あるときはその慣習に従う(民法三三六条))は、必ずしも五十cm離隔する必要はありません。しかし、新築当初は合意ができた、慣習があったりしても、将来にわたって約束されているわけではなく、所有者が変わり、時代が変わると考え方も変わり、トラブルになる事も考えられます。

境界上に立つ塀

街を歩いていると、控壁がなく倒れそうなブロック塀を見かけます。明確に敷地内にある場合は維持管理者がわかりますが、敷地境界線上に立っている場合や、敷地境界を決めた時にブロック塀の真ん中にした場合などは、誰が維持管理をするかでトラブルになる可能性があります。もちろん最初から明確に決めていけばいいのですが、気が付かず購入した土地がそうだった場合もあります。維持管理も考えて：

至極当たり前のことですが、建物を建築する際には将来の維持管理のことも考えて、設計施工したいものです。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市の都心部を流れる大川に架けられた銀色に輝く桜宮橋(通称銀橋)。都心部である北区と都島区を結ぶ橋として重要な役割を担ってきた。しかし、交通量の多い国道1号では慢性的に渋滞が発生していたため、現在の橋は残し、新たな橋の建設を事業化した。その後、安藤忠雄氏の設計で新桜橋が完成。建築家がデザインした橋が並ぶという珍しい風景が実現している。

橋は大正時代に第一次都市計画事業天満蒲生線の附属橋梁として建設された。意匠指導は武田五一氏が担い、橋の製造は汽車製造(後に川崎重工工業に吸収合併)が担当し、昭和五年(一九三〇年)に完成。総工費は当時としては破格の二八万円で、橋の規模は、橋長一八八m・幅員三三m・支間一〇四mで、戦前では日本最大のアーチ橋でした。また、橋周辺の支地盤が悪く、支点沈下のおそれから三ヒンジアーチという特異な形式が採用されている。

二人の建築家が携った新旧銀色に輝く橋は「造幣局の桜の通り抜け」が開催される四月末に、美しい桜と一緒に、見頃を待っている。

建築人 3 2015

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表 米井 寛 飯田英二
編集人 荒木公樹 黒川祐樹
河合哲夫 中江 哲
筑波幸一郎 牧野隆義
橋本頼幸 舟倉政美
事務局 山本茂樹
印刷 中和印刷紙器株式会社



グランフロント大阪

日建設計+三菱地所設計+NTT ファシリティーズ
(実施設計では大林組、竹中工務店と協働)

旧貨物ヤードがあった地に関西再生を賭けた『うめきた地区』の先行開発として『グランフロント大阪』が竣工・まちびらきし、早や2年を迎えようとしています。すっかり大阪の正面玄関の風景として馴染み親しまれ、ビジネスマンや買い物客をはじめ老若男女を問わず多くの人々が行き交う場所となりました。これは建物や施設の機能整備だけでなく、企画・計画段階から現在の運営にいたるまで「まちを育てていく・ひとが育っていく」ことを大きなテーマとして取り組み、順調に進化していることの証左だといえます。

グラウンドオープンとともに始まったさまざまなイベント、情報発信、他に類を見ない水と緑あふれる駅前広場、カフェの賑わいがしみ出す公共歩道空間の実現、梅田界隈を周回するお散歩バスの運行やレンタサイクルなど、来街者が訪れたいくなる魅力づくりのための「まちの運営」が行われています。また中核施設である『ナレッジキャピタル』では、未来の生活を提案するショールームやシアター・コンベンション・カンファレンスの充実などのほか、新しいビジネスを創り出す原動力となる『ナレッジサロン』では「人と人が出会い、つながり、新たな価値を創造する」をテーマとして好調なスタートを切り、国内外の各方面からも注目されています。

延べ56万㎡を超える「まちづくり」と、人が集い賑わう場のための「ことづくり」。これらが高次元で融合したプロジェクトであり、次の時代への挑戦です。

撮影：日建設計 文：岡田耕治 第34回大阪都市景観建築賞大阪府知事賞受賞作品

